

多々良沼の白鳥

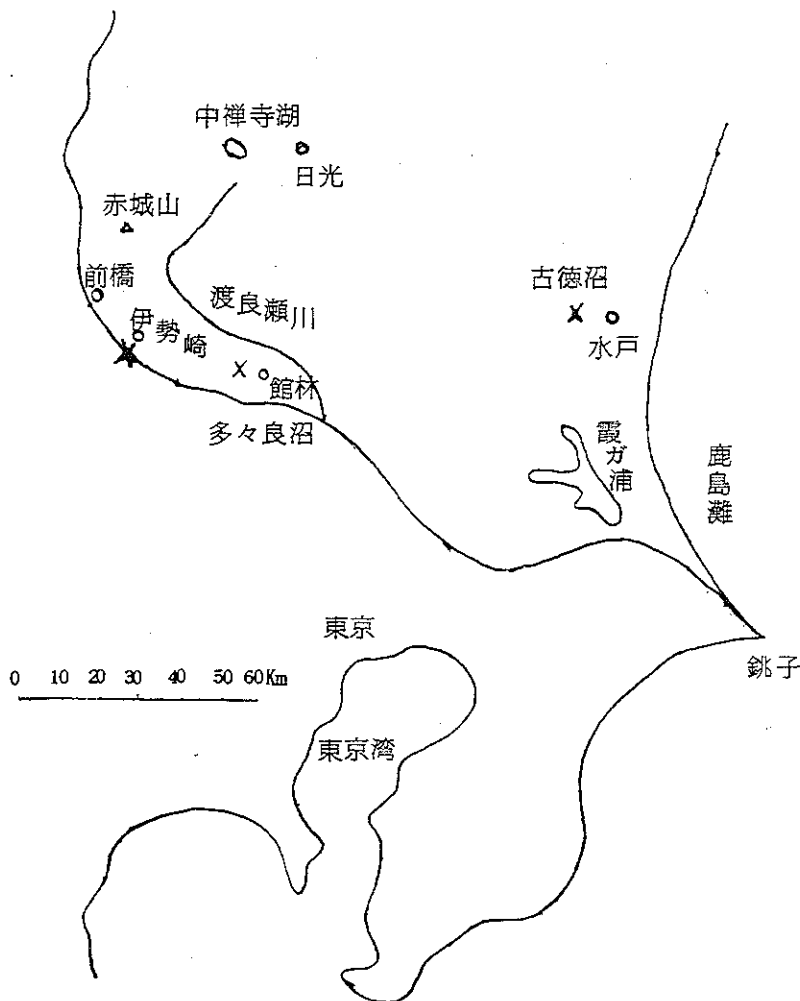
川島正一

1. 多々良沼について

多々良沼は群馬県館林市日向にある。上越国境大水上山(1834メートル)に源を発する利根川は、我が国第一の流域の広さを誇っている。奥利根水系・烏川水系・渡良瀬川水系・鬼怒川水系を合わせて、鹿島灘に注いでいる。館林・邑楽地方

は、この利根川とその北側を流れる渡良瀬川とその二川に挟まれた、東西に長い南北10キロメートル、東西20キロメートルの地域である。大きく見れば、関東平野西北部、利根川の中流域にあたる。この地方は、北の渡良瀬川氾濫原沖積低地帯と、南の利根川氾濫原沖積低地帯、それに西から東へのびる洪積台地に区分される。これらの地

図1 多々良沼の位置



域には、多々良沼・近藤沼・城沼・茂林寺沼・蛇沼・板倉沼などの湖沼群がある。中央の洪積台地は海拔20～25メートルであり、約20メートルの等高線で沖積低地と接している。また標高30メートル位の河畔砂丘地帯がある。

多々良沼は、このような沖積台地の中の低地帯、館林市街地西約2.6キロメートルにある。西部は邑楽町に接している。多々良沼の成因について考える時参考になるのが、その東南に連なる河畔砂丘地帯である。これは西から北東に約12キロメートル程続いている埋没砂丘であり、砂丘上には少くとも、中部ローム層以上の関東ローム層が堆積している。砂丘地帯は、約

10 万年前のリス・ウルム間氷期の海進でできた古東京湾が、やがて気候の寒冷化に伴う海退により、その姿を消していくころ形成されたものと考えられる。おそらく利根川によって大量の砂が供

給され、自然堤防状の帯状砂丘地帯がつけられたのであろう。その河川の流路が、現在の多々良沼低地帯の原形を形づくったものと考えられる。少くとも5万年以前のことである。

図2 明治17年ころの多々良沼

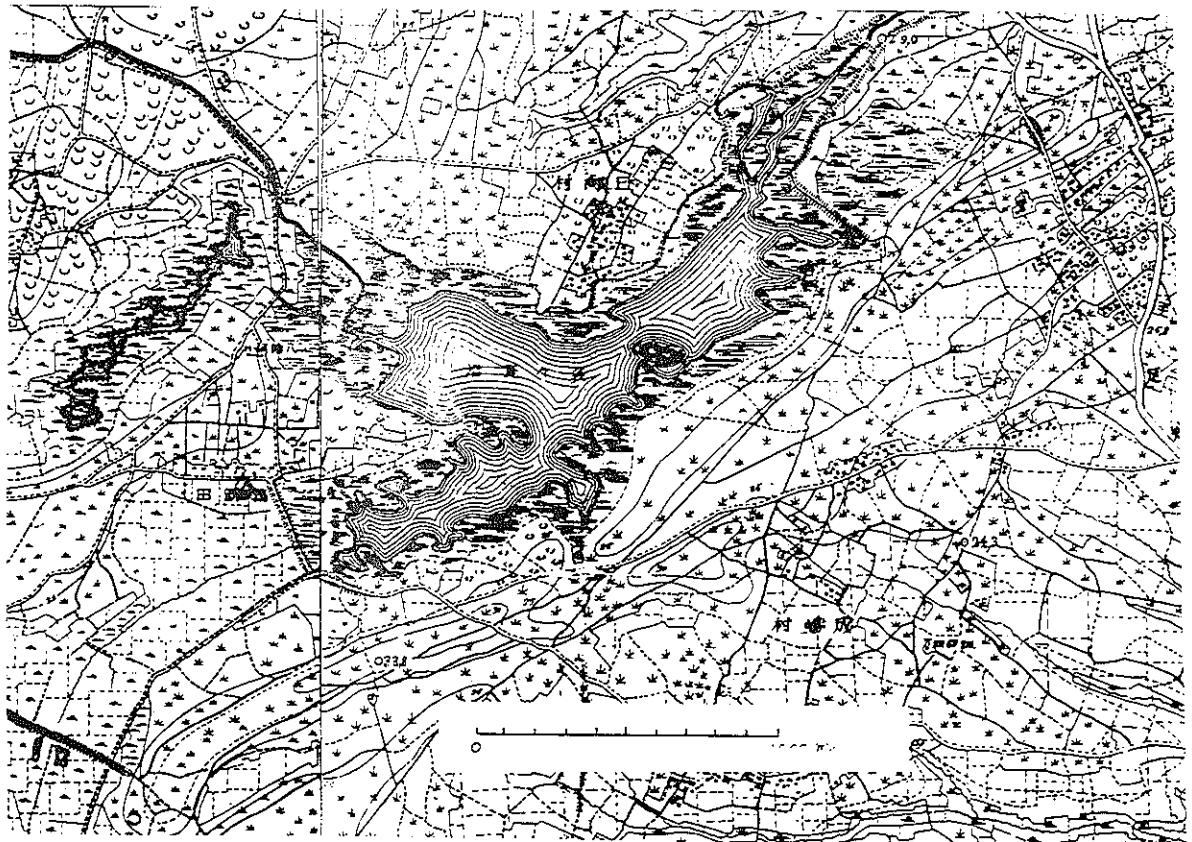


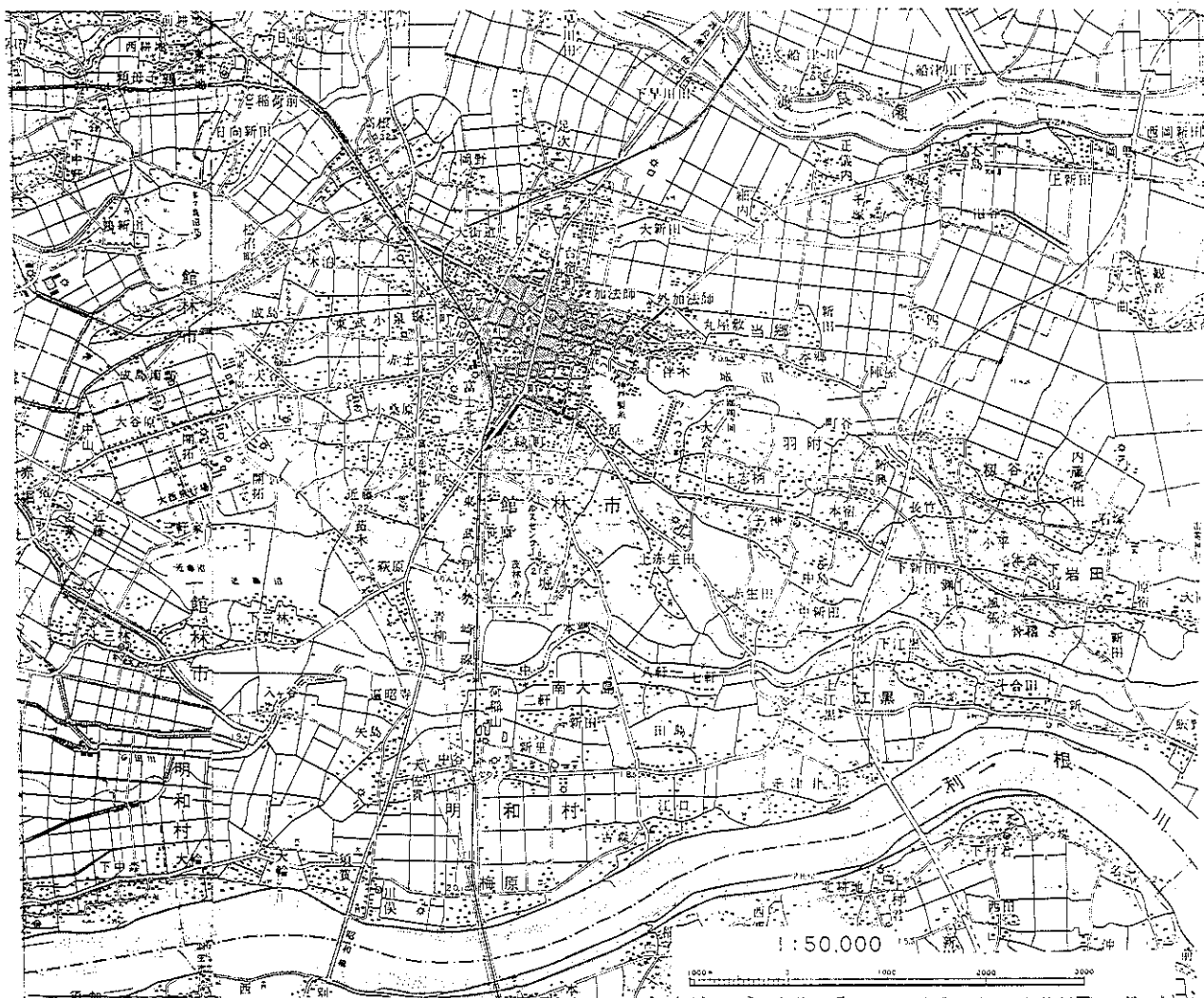
図2は明治17年に作られた地図である。これによってかつての多々良沼のおもかげを知ることができる。かつては130ヘクタールの面積を持つ沼であった。現在の沼は、北東部が戦後、昭和21年食糧増産のため約41ヘクタール程干拓され、また、昭和19年からは北西の中野沼との間にも堤防計画が進められ、中野沼12ヘクタールも埋立てられた。西南の堤防は明治2年に、沼水の氾濫をふせぐために作られたものである。このように3つの堤防に囲まれて、現在の多々良沼の形ができあがったと言ってよい。

沼には北西から多々良川が、邑楽町方面からの用水堀である孫兵衛川が入っており、排水は、北

の矢場川へおちる多々良川と、南は谷田川へおちる逆川とがある。沼の形態は現在図3に見るように、レの字を横にしたような形となっている。水深は3メートル以下の遠浅で、年間の水位変動が大きく、冬期は水深が50センチ以下になってしまい、水面域は夏の4割減になってしまう。沼は農業用水としての役割と、漁場としての役割を持っている。

多々良沼はかつて天然記念物のムジナモをはじめとする水生植物の宝庫として知られていたが、昭和26年頃から、北西より沼へ入る多々良川に沿って澱粉工場がたち、その汚水によって多くの植物や魚貝類が死滅した。60種もあった水生植

図3 多々良沼付近の地形



物はほぼ全滅し、沼水面の7割をおおっていたというオニバスも昭和50年には全滅したという。私自身、小学生の頃、舟で先生たちと植物採集に

でかけた時の水生植物の多さや、ハスの葉のことは今でも記憶に残っている。現在では、岸辺にヨシ・マコモ・ガマ・フトイ・沼底の一部にコウガ

イモが見られるだけだという。なお、現在、沼の北西部には約5,600平方メートルの範囲にハスが生えている。これは3・4年前、城沼より移植したものが増えたものだという。これまで多々良沼の概況について記したが、次にこの館林・邑楽地方への白鳥の飛来について記してみたい。

2. 館林近辺における 白鳥飛来の記録

この地方は沼が多いためか、昔からカモ類の越冬地として知られていた。しかしながら白鳥飛来に関する古い時代からの話は聞いたことがない。海老野邦輔(1979)によると、1974年末、多々良沼へ5羽の白鳥が舞い降りたが、そのうち1羽は銃砲で撃ち落され、はく製屋ではく製にされかかったのが発見されたという。これは新聞でも報道され、私自身、伝え聞いた記憶がある。その後1976年5月には北へ帰らなかった1羽のオオハクチョウが、館林の北を流れる渡良瀬川で発見され、9月ごろまでこの周辺で生活していたという。また、1976年12月31日には、多々良沼より東方にある城沼のほとりで、田村五郎氏が夕方4時半ころ、西へ飛ぶ3羽の白鳥を目撃されたという。その後1979年には、多々良沼へ3羽飛来し、休んでいるのを見かけた人がいるという。いずれも渡良瀬川のオオハクチョウの1羽を除いては、飛来してもまたすぐ飛び去ったようである。渡良瀬川のものにしても、時期からして、何らかの原因で帰北できなかつたのであろう。白鳥がようやくある期間、滞在するようになったのは、1979年末になってからの事である。

3. 多々良沼の白鳥の記録

多々良沼は現在猟区になっており、11月15日から2月15日までの3ヶ月間は、早朝や夕方など銃声が聞えてくる。秋になり、稲の穂がなびき、カモ類がやってきて夕暮の空を群飛ぶように

なると、沼の西側の干上がった岸边には、いくつものヨシで作ったトヤが立つ。そこに身をかくし、早朝鳥を撃つためである。しかし、今では狩猟開禁日などの他は銃声が聞えるようになると、多くの鳥たちは近くの禁猟区となっている城沼や茂林寺沼などへ逃げていってしまうという。

1980年1月、館林市の西に隣接する邑楽町の邑楽町誌編さん会議があり、その折、多々良沼へ白鳥が来ていることを知った。その方面には小さい頃から関心は持っていたものの、冬には、朝凍っているつくばいに水を入れてやり、うぐいすやめじろ・しじゅうから・ひよどりなどが水を飲んだり、水あびするのを見るのが楽しみなくらいであった。

その年2月21日、どういうわけか務めの帰り、多々良沼の北側を歩いていった。その時初めて白鳥の姿を見た。沼の北側中央付近にある舟つき場西方で、首をつっこみ、さかんに餌を食べていた。私は驚きと同時に大変興味をそそられた。驚きというのは、自分自身の白鳥に関するイメージとはまったくかけ離れた生きた生活する野生の白鳥の姿がそこにあったからだ。首をつっこみ、泥んこになり、逆立して餌をとっている姿に心うたれた。興味というのは、その姿からコハクチョウ5羽のうち3羽は幼鳥と思われ、他の2羽が成鳥と思われたからである。とすると、多々良沼へ来ている白鳥は、一家族という群の基本単位であるかも知れないし、もしそうなら、最少単位の群の観察から、個々の白鳥の様子も含め、色々な相互の関係を知ることができるかも知れないと思えた。私自身の頭の中には、サル研究者たちが個体識別を行い、群の様子や関係を調べ、人間社会の原形をさぐるうとしたことなどが知識として入っていたし、かつて栃木県山奥で、野生の猿の群に出合った時の生々しい感動が残っていた。

2月21日以後朝夕の観察が始った。職場の人たちに白鳥の話をする、「それはアヒルだんべ」

などと言われたが、アヒルは私自身も小さいころ池で飼っていたので、アヒルと白鳥の違いくらいはわかった。確かに、多々良沼には捨てられたアヒルが9羽住みついていたのである。観察と言っても素人のものであるから、その点最初に明記しておきたい。最初、専門の方に依頼するのが良いと思い、野鳥の会館林支部の方に連絡をとった。

しかし白鳥だけの観測をしている人も専門家もいないし、観測態勢もしけない様子なので、素人の私が手を出すことになった。務めの関係もあり、観察は出勤の行き帰りと土(半日)・日曜のみであり、他は、他人から聞いたりしている状態で、不十分な点が多い。

1. 1979年～1980年の記録

私が初めて2月21日に見た5羽のコハクチョウは最初いつごろ飛来したのであろうか。色々な人の話を聞いてみると、1979年10月中旬には飛来したという人もいたし、12月の初めに来たという人もいた。はっきりとはわからないので、多くの人が見ている12月には確かに5羽飛来していたと考えてよいであろう。10月中旬ころ飛来し、それからも定着せず、飛来したり、飛び去ったりしていたものだろう。12月より私の観察の始まる2月21日の間も、ずっと沼へいたわけではないらしい。2月21日以降は、ある程度自分自身で確かめているので、そこから記してみた。

2月21日 晴

帰り多々良沼へ寄る。白鳥5羽見る。ゆったりしている。タタラ拾って来る。

2月22日 晴

昨日の白鳥は、アヒルではないかと言われ色々考える。大きさがちがうし、くちばしの色もちがうし、首の長さもちがう。帰り、また沼に寄る。舟つき場西方にアヒルがいた。白鳥はいなかった。舟つき場の田中さんに、タタラの話をしたり、聞いたりする。

2月23日 晴

帰り多々良沼。やはり白鳥が5羽いた。近づくると左まわりに弁天様近くの西よりの所へ行ってしまった。羽音はすごい。そこから、こちらまで聞

える。1時間位眺める。蓮の根を食いに来ているらしい。帰ってから地図で測ったら、羽音が聞えたのは450メートル離れた所からだった。

2月24日より3月3日まで白鳥見えず。

3月4日 晴後曇

帰り白鳥は舟つき場西方。アヒルがいる所へ白鳥が1羽近づいた。アヒルは遠ざかって行ってしまった。ほぼ水面に直角に足を少しちらつかせながら、逆立して蓮の根を食べているらしい。首を出すすと首だけは泥だらけだ。一度だけ水面で、1羽の白鳥が羽を広げ羽ばたきした。

3月5日 曇

夕方白鳥見る。今日もいた。やはり同じ蓮の生えている所で餌を食べている。蓮の分布を知りたい。今日2つの姿を見る。①首をつっこんで餌を探す前に、水かきで泥水の中をかきまわす動作②休む時体の上に首をのせる姿。5羽のうち2羽が大きめで、3羽はやや小さく、首の色が黒っぽく、親の方とはちがう。はばたくと羽が大きいのに驚く。

3月6日 曇

朝、白鳥は5羽泳いでいた。

3月7日 曇後小雨

朝、白鳥見る。初めて蓮のある沼ペリの陸にあがっていた。足と足との間の幅が大きく、恰好が良いとは言えない。帰りやはり沼へ寄り、白鳥見る。やはり蓮のある付近で餌を食べていた。近づ

くと警戒して泳いでしまう。

3月8日 曇 風強し

朝夕沼を見るが白鳥見えず。風強し。9日も見えず。9日の上毛新聞に多々良沼東南方約6キロメートル程の所にある城沼に、8日白鳥が5羽が舞い下りたという記事がでていた。どうも首の色がちがいがら、親2、子3羽のように思える。強風のため多々良沼の白鳥が一時移動したのではないかと思う。

3月10日 晴 一日中風強し

白鳥は珍しく沼の東方岸辺にいた。一番西風の風下にあたる。

3月11日 晴

朝見えなかったが、帰りにはやはり蓮の所にいた。アヒルが2羽近づくと幼鳥の方の3羽が一緒になって泳いできてアヒルを追いとばしてしまう。

3月12日 晴 風強し

朝沼東方に白鳥5羽。帰りは西方、蓮の所。

3月13日 晴

行き帰り白鳥見えず。沼にうす氷はる。

3月14日 曇夕方小雨

朝夕白鳥眺める。夕方白鳥見ていたら漁業組合長の福田さんがパンをやりに来た。初め逃げた白鳥も、やってきて浮いているパンのくずを食う。アヒルの方が慣れていて泳ぎも食べるのも早い。白鳥もだいたい慣れてきたようだ。パンをやるなら学校給食の残りのパンをやるかと思ひ、組合長さんに話したりし、舟つき場でお茶を馳走になり帰る。そろそろ白鳥が北へ帰る日が来るかも知れない。13日午後3時には、日本海に1023ミリバール、関東地方東岸に1020ミリバールの高気圧、北海道北東には980ミリバールの低気圧がある。

3月15日(土) 晴

帰宅後2時頃沼へ。今までで一番近くから見られた。餌は食べていない。行って少したってから近くへ来たので、腹ばいになり、そのままずい分見ていて、写真とる。最後にフィルムが終る頃に

は白鳥もい眠りのような恰好で休んでおり、私も疲れて眠くなり、おかしくなってしまった。

3月16日 曇時々晴

沼へは行かなかったが、後で話を聞いたら、白鳥はいたという。

3月17日 晴

夕方1時間程白鳥見る。水の中で、足一本で立っており、もう一本は羽の中に入れてある。水かきで泥水の中を探ってから、首を入れ、餌を食べている。泳ぐ時、水かきは互い違いにかいていたが、いつもそうなのかどうか。

3月18日 晴後風強く曇

行き、蓮の所に白鳥。帰りにパンやってくる。初め、ためらうが、そのうちやって来てすぐ食べてしまう。アヒルが近づくと、白鳥がアヒルを追いとばしてしまう。風が強く、パンが東へ流れたので、舟つき場西の岸近くまで食べに来た。真冬の寒気が北海道の北を通り、冬型となった。上空5500メートルはマイナス42℃だという。

3月19日 晴後曇

朝、白鳥は舟つき場近くにいる。帰りに寄ったら、近くによって来た。とても嬉しかった。何か餌をくれるかと思ったのかも知れない。5羽、こちらへ向ってかなり近づいて来た。しばらくして、まわって遠のき始めた。帰ろうと思ひ、下を見たら、パンくずが落ちていたので、それとみかんの皮を少し拾い、投げたら近づいて食べた。ずいぶん慣れてきたようだ。

3月20日 晴

朝夕沼へ。白鳥の足跡が岸辺の水中にあるので、水かきの大きさを測ったりする。11×15センチくらいあった。白鳥は真横から見ると足がほぼ胴の中央にある。くちばしの峰の部分が、親と思われる2羽のうち、1羽は黒い部分が多い。幼鳥と思われる3羽は皆、黒い部分が3本のV字形の縞のように見える。親の方と思われる2羽のうち、片方はいくぶん大きい。

3月21日 曇

朝夕沼を見る。白鳥は舟つき場西方にいた。給食用のパンは米飯の時はでないので、週3回残り残りが期待できない。通り道の館林第八小学校の島野教頭先生にも連絡し、残っていたらとっておいていただくようお願いする。

3月22日 小雨後雪

行き、多々良沼見て行く。彼岸だというのに雪になった。4時頃、雪の中、白鳥に餌やりに行く。初めて家内と一緒にいったら、傘の色のせいとか人相のせいとか、とても警戒してなかなかよいつかない。パンをやるとそれでもしばらくして、ようやく食べに来た。今日はとても警戒している。傘をあける音にも反応してびくっとした。

3月23日(日) 曇後晴

9時半頃沼へ。白鳥は鶉古城の森の方で休んでいたのが帰る。夕方また出かける。今度は近くにいたが、昨日、今日と用心深い。餌をやってもなかなか近づいて来ない。寒い。しばらくして、ようやく食べる。夜、バレー白鳥の湖テレビで見る。

3月24日 晴

朝夕、多々良沼。パンをやってもかなり警戒していた。

3月25日 晴後曇

朝、白鳥は弁天様の方へいたが、9時半ごろは舟つき場西方にいたという。帰りに餌やったり、漁業組合の人たちと話したりする。昨日よりずっと慣れて近づいてきた。安心しているが、他の人が近づいて来ると用心深くなる。今日の給食は黒パンだった。それも白鳥は食べた。このところ沼の水量が少し増えた。あまり、この頃、白鳥のもぐって餌を食べている姿を見かけない。このところ白鳥の色が白くなった。もぐらないせいだ。

3月26日 晴

朝、舟つき場西に白鳥。帰り弁天様西方。邑楽町立中野小学校、館林市立第八小学校にて給食用パンの残りをいただき、また多々良沼へ。漁業組

合長、子供づれ婦人の3人がいる。餌はやったとのこと。しばらく見て、まだ食い足りなさそうなので少しやる。だいたい雪の日より安心感をもって近づいて来る。今日の上毛新聞に「館林の多々良沼、エづけ成功も間近」という見だしで白鳥の記事がでていた。あまりさわぎたてなければ良いと思う。白鳥にとっては迷惑な話なのだ。今年の春は寒い。白鳥はいつ帰るだろうか。

3月27日 晴 風強し

行き、弁天様西方に白鳥。帰り沼へ寄ったが餌をやってもよいつかない。食べなかったが、そのまま帰る。沼べりで漁業組合の人たちが多ぜい仕事しているためか、白鳥はおちつかない。夕方本屋で、本田清著「白鳥のいる風景」たまたま見つけ、夜夢中で読む。

3月28日 晴後曇

朝、舟つき場西に白鳥。帰りパンやる。だいたい安心して食べていたが、子供たち3人が遊びに来たら逃げた。大変敏感なのだ。くちばしは、やはり例の3種で、そのうちの親と思われる蜂の黄色い部分の多いのが一番体も大きく、リーダーのように思える。雄なのかも知れぬ。そう思えるだけで確証なし。

3月29日 春めいて曇空 夕方より雨

朝、白鳥は舟つき場西。帰り弁天様西方。まわって弁天様より白鳥見る。餌をそこで食べるわけではなく、休んでいる様子。そこが安全地帯と思われる。孫兵衛川の出口付近にあたり、浅く、付近一帯には足がめりこんで、人も犬も近づけそうにない。

3月30日(日) 一日中風強し

朝7時頃沼へ。白鳥は弁天様西。富士山がとてもきれいだ。夕方5時すぎ再び行き、パンをやる。すぐ食べに来た。盛んに食べ、かなり安心していた。帰ろうとしたら、子供づれの婦人が自転車に乗ってきて急に止ったので、その音に驚き、白鳥が飛び立ったらしい。はじめ、ちがう他の白鳥が

来たのかと、びっくりした。大きく二度左まわりに沼をまわって弁天様西方に着水した。余程びっくりしたのだろう。しかし、おかげで初めて白鳥の飛ぶ姿を見ることが出来た。大きい。驚く程の感動だ。何かひどく衝撃を受けた。沼が狭いように思える程の飛び方だった。着水は案外すぐしてしまう。

3月31日 曇

朝は弁天様西。帰りは沼の南側にいる。珍らしい。夕方6時頃、また行く。沼の田中さんの話によると、3時頃少し餌を食べたが、皆んながいたので遠くへ行ってしまったという。昨日からパンはあまり食べていない。余程昨日は驚いたのだろう。また用心深くなってしまった。

4月1日 曇時々雨

7時、白鳥は沼の南側。11時、西側。4時、舟つき場。夕方いったら餌を食べていたが、すぐ恐れて遠のく。日曜の夕方以来びくびくしている。

4月2日 晴

朝、白鳥は弁天様西。帰り、沼の東にいた。5時～6時、沼。北東岸辺付近より西へ飛ぶ姿を見る。夕日がきれいだ。このところ、日曜日以来、白鳥は人を怖がっている。

4月3日 晴

朝と帰り白鳥は弁天様西。6時近くなり再び沼へ。ちょうど舟つき場西へ白鳥は来ていて、静かに下りて行ったら逃げず、パンをちぎって投げたら、よってきて食べた。嬉しかった。4日ぶりに安心していただけだった。不思議に、コー・コーと鳴き、他のも鳴いていた。そして首を曲げたりして、口ばしを上に向けて鳴いていた。向きは西南の方向である。その他にも、普通とちがう鳴きかたをしたりした。餌がほしかったのか、なんなのかよくわからない。それでも何だか久しぶりに近づけてよかった。今日は寒かったが初めて南風が吹いた。

4月4日 晴 南風

夕方、多々良沼へ。白鳥がいないのではないかと一日気がかりだった。南風も吹きだしたので、今日あたり帰ったかと思った。白鳥は沼の南側にいた。しだいに夕方には、こちら側へ近づいて来たが、3羽は鶺鴒古城の方へ。親の方の2羽だけ餌場に来て、田中さんのやった餌を食べた。私も少し近づいて見ていた。しばらくして、コー・コーと2羽がさげんでいたの、子の3羽を呼んでいるのかと思ったら、あっという間に飛び立ち、3羽の所へ行ってしまった。助走もあまりせず、急だった。その前、こちらへ来る時も、何度も呼びあいながら泳いでいた。飛ぶのを最初から見たのは初めてだった。パン・魚・うなぎ・茶も食べるという舟つき場管理人の田中さんの話。朝は白鳥5羽とアヒル2羽、全員集合するという。

4月5日 晴後曇 南風

暖く5月初めの気温だという。朝6時40分から9時、沼へ。なかなか北側から、こちらへ来ない。時々鳴きながら1羽が近づくが、人がいたりするせいか、ようやく2羽、餌を食べに来ただけだった。用心ぶかくなってしまった。田中さんが呼んでも来ない。夕方5時頃沼へ。やはり北側で動かず。このところ、朝、鳴き声高くしているという。そろそろ帰るのではないだろうか。夕方より曇ってしまった。明日は雨らしい。これならまだ、2・3日白鳥はいるかも知れない。

4月6日

朝6時半から9時半沼へ。白鳥は蓮のある所。午前中、もう一度、母と兄つれて沼へ。夕方、5時半から6時半、沼へ。風つよく南西風。白鳥は蓮の所で6時半頃まで餌を食べていた。

4月7日 曇時々晴

朝白鳥見えず。帰り12時半ごろ、弁天様の付近。夕方5時頃弁天様の所の白鳥の所へ行く。白さきなどと一緒に浅瀬にいた。やや南風が西よりの風になっていた。水辺の草の芽も生え出してい

る所だった。今日こそは、朝見えなかったの、帰ったのかと思ったがいた。もう他の所ではだいたい帰ったという話を聞く。

4月8日 曇

朝、白鳥は弁天様南。帰り弁天様北。帰り1時間程見る。

4月9日 曇夕方小雨

白鳥は朝、弁天様の東。帰りは北。舟つき場は仕事師が何人か来ていた。岸辺の餌場を見たが、白鳥の足跡はない。このところ近づいてない。

4月10日 晴 冬型 風強し

朝白鳥は弁天様北。パンを投げたが近づかない。南よりの風だから白鳥のいる所へ流れていったろう。このごろ、親の2羽と子の3羽が別行動をとることが多くなってきている。羽ばたきも多い。舟つき場の運のある所へは近づかないようだ。仕事している人たちがいるためかも知れぬ。

4月11日 晴後曇

朝夕弁天様北に白鳥。帰り、パンを投げて白鳥のいる所に流れつくようにする。やはり、このごろ親2羽と子3羽が別れて行動することがある。それから、首をまげて、コー・コーと鳴くことがある。羽ばたきも前より多い。このところ白鳥は舟つき場の方へ行ってない。車があり、工事しているせいかも知れぬ。25倍の望遠鏡もった国井夫妻に会い、それで白鳥を見せていただく。口ばしの峰もよく見える。

4月12日(土)

朝、弁天様北に白鳥。田中さんの話でも、この頃こちらによりつかないという。帰り、弁天様により、パンを投げておく。白鳥は昼休み中。夕方見に行く。今日から借りてきた双眼鏡で見る。やはり、親子で少し離れて別行動とり始めたり、1羽1羽の間が離れたりする機会が前より多い。白鳥の他には、カイツブリ・白サギ・カラス・アジサシなど見える。夕方パンやったが、少し近づいただけでやはり寄りつかず、西の浅瀬の方で何

か食べていた。その付近を昼すぎ見に行ったところ、北西から流れる係兵衛川の沼へ入る川口に近い所であり、あるいはタニシなどの小動物がとれるのかも知れぬ。1羽だけ下向いていて、他の4羽と離れても動かない。

4月13日(日) 小雨

午後、弁天様の方へ行く。白鳥は4羽きり。メス(?)らしきものが親1羽いない。どこを探しても見えない。夕方5時頃行ったら弁天様西方の陸に上り、珍しく何かを食べていた。パンを弁天様から投げたが、少し近づいただけで食べない。1羽、どこへ行ったのか心配だ。

4月14日 雨

朝、白鳥は4羽。雨の中、舟つき場より、舟つき場物置より見る。また北側の道路からも見るがやはり弁天様の所に4羽きり見えない。学校遅刻。1時頃、金曜日に会った野鳥の会の国井さんから電話あり。白鳥1羽、死んでいるのが見つかったとの連絡だった。2時には県より係の人がひき取りに来るとの連絡を受け、立ち会いのため、午後休暇をいただき、舟つき場事務所へ行く。あわれ土間に、白鳥死す。午前中東南方の岸辺に死んでいたのを国井さんが発見し、田中さんと舟でひき取りに行ったという。やはり、親のうち小さい方のメス(?)と思われる白鳥だった。あの、土曜日の動かない姿は不自然であったと、今色々なことがよみがえる。スケッチと口ばしや足の水かきの大きさなど見る。白鳥の、これ程美しい姿は、今までに見たことのないものだった。やすらかに、そのものだった。漁業組合長の福田さんが、「かわいがっていたのだから、抱いて写真とってもらったらいだんべえ」と言って下さったので、国井さんをお願いして雨の中に出て、白鳥をかかえ白鳥の首を手でもちあげ、生きてみたいにして、写真とっていただいた。午前中の体の疲れと調子のわるいところ、このことで一層疲れきってしまった。5羽で帰ってもらいたかった。あとは

せめて4羽だけでも無事、帰ってほしい。柳の青さや、雨の中でとっていただいた写真が、この白鳥との最後になった。白鳥は県の方へ行くという。静かに埋めてしまえばよかったのではないか、などとも心の中で愚ったりしていた。

4月15日 雨

朝、白鳥は弁天様北側の方で泳いでいた。双眼鏡で見るとかなり元気そうに見え、安心する。天気が昨日より涼しくなったせいかも知れぬ。今日は北東から風が吹き、高気圧も北を通ったので寒かったのだろう。昨日は南西より湿った風が吹きこみ、20℃を越えた所があるという。帰り舟つき場から見ると、白鳥がどこにも見えず、不安になる。帰宅後、さっそく国井さんに電話したところ、3～4時頃飛び立ち、桜土手の方、つまり弁天様南の方の水のある所で餌を食べていたという。元気だったという。最初3羽が飛び立ち、その後1羽が飛び立ったという。やはり、飛ぶ時には、コー・コーと鳴いたという。どうやら元気らしく安心する。こうなるとは、4羽だけでも無事帰ってほしい。

4月16日

朝、白鳥は弁天様西方で元気そうだ。昨日からその辺にいるらしい。安心する。帰り、弁天様南付近にいた。そちらの近くにまわり、近づいて見たら、マコモの新芽の間で、泥水の中を足でかきまぜ、首をつっこんで、4羽が餌を食べていた。安心する。何か安心感で晴々した気持になる。天気の良い日に帰るだろうから、あの縁の出はじめた中の白鳥を写真にとっておきたい。

4月17日 曇

行き、白鳥見えず。帰り弁天様より見る。沼の北側、蓮のある西の方に5羽いる。驚く。不思議な感じで、また嬉しくもあった。1羽は首の部分が黒っぽい。他の群ではないかとも思ったが、口ばしの黄色いやつがいて、やはり4羽の群に1羽が入って来たのだ。もっとよく見るため、沼の北

側にまわる。北側の道路より双眼鏡で見る。やはり5羽にまちがいない。道路より急いで下り、沼にわけ入り、こーい、こーい、こーいとパンを投げながら何度も呼んだら4羽が近づいて来た。しかしとうとう近くまでは来なくて、パンも南風に流されて岸边についてしまった。白鳥は向きを変えて弁天様北方の、いつもより北側の所へ泳いでいった。新しい1羽の白鳥も、子の3羽と一緒に泳いだりして群にとけこんでいる様子だった。弁天様に再び向い、そちらから見たが、羽づくろいや、羽ばたきなどしていて、あまり動きがなかったし寒くなって疲れてしまったので帰る。疲れて、こたつで眠る。国井さんより電話があり、10時ごろ、5羽を確認し、飛ぶのも見たという。このごろ動きがよくなったようだ。

4月18日 快晴

久しぶりに快晴。今日あたり白鳥は飛び立つだろう、そんな朝だった。しかし、やや寒い。鯉のぼりを見ると、やや西よりの風だ。沼の土手を通ると、男体・白根・赤城・浅間・富士の山々が白く見える。富士山の南に少し雲があるくらいで快晴。柳や水辺の草も芽をふき、若草色だ。

やはり白鳥はいなかった。沼を全部見た。舟つき場の田中さんに、「おじさん、白鳥は帰ったんみたいですね」と言ったら、「今朝から見えねえきのうの1羽が、お迎えに来たんだんべ」と言った。そのとおりでと思った。もしかしたら、弁天様の南のマコモの間にでもないかと、再び引返し、桜土手から見たがどこにも見えなかった。やはり白鳥は帰ったのではないかと思った。土手の桜はもういつの間にかだいぶ散り、葉桜になり始めていた。柳の青や沼のヨシやマコモの新芽がみずみずしかった。何だかほっとした気持になり嬉しかった。1羽が死んでから、早く、無事、帰ってくればとだけ思っていたのだった。学校に着き、すぐ国井さんに今朝の様子を電話で伝えた。

帰り再び弁天様によった。白鳥らしきものは見

えず、白さぎだけが見える。ふと東の方を見ると双眼鏡に1羽の白鳥がうつった。驚いた。首から見て確かに白鳥だ。弁天様の工事の人達にもものぞいてもらった。どういう白鳥なのか、もっと近くで見ると、桐の木の生えている東の岸辺にまわった。ちょうど1羽が死んで流れついたあたりかも知れないと思い、あの片方の親の白鳥では、という心配があった。しかし、昨日の突然現われた1羽の首の黒い白鳥でもなく、あの片方の親の白鳥でもなく安心した。口ばしの峰は、やはり黒いが、それに縞があるかどうかはわからなかった。もし4羽のうちのなら、子の方だ。しかし、1羽だけ群を離れる事もないだろうから、やはり5羽は帰り、ちがう1羽が舞い下りたのだろうと思った。白鳥が日没とともに弁天様の右を通過して、あの5羽の白鳥がいつもいた方へ泳いで行くのを見て帰ってきた。疲れたが、園井さんに報告した。なんだか白鳥が帰って安心した。多々良沼の夕日はいい。4月18日午後3時の気圧配置は、日本上空南から北まで1022ミリバールの高気圧におおわれ、大陸西北部に970ミリバールの低気圧、北海道東部に992ミリバールの低気圧。

4月19日 晴

朝、白鳥は弁天様東方の岸辺。昨日からのもの。園井さんの話によると、朝6時頃にはどこにもいなかったという。帰りも白鳥は朝いた所にいた。夕方また沼へ行ってみる。白鳥は岸辺で水をすすって首をあげて飲むような恰好をしきりにしていた。昨日もそうだった。1羽のせいかな何となく淋しい。白サギ・ゴイサギ・コアジサシ・カラス・カイツブリなど見える。

4月20日(日) 曇 風強し

11時頃、白鳥は沼東方岸辺。夕方再び沼へ。東の岸辺から見る。昨日と同じ白鳥である。あまり活動せず、昨日のように岸辺で水をふくんで首をあげ、飲むような動作をしたり、休んでいたりする。口ばしは黒いが、V字形ではないようなの

で、やはり前からいた5羽のうちの幼鳥3羽のうちの1羽でもなく、他のものが飛来したものと考えられる。

4月21日 曇後小雨

朝、白鳥見えず。帰り、白鳥は東の岸辺にいる。

4月22日 曇時々晴

白鳥は朝夕東の岸辺。帰り舟つき場より眺めたがよくわからず、橋の上から確める。東の岸辺にまわり、白鳥見る。やはり口ばしの峰は黒く、前の幼鳥3羽のうちの1羽ではない。相変わらず、あまり目だった行動をせず、水を口にふくんで首を上げるような動作を何度もする。これは最初の日からの動作だ。首が前よりよごれ、胸の所もよごれている。東の岸辺だけで餌は足りるのだろうか。首がよごれているのだから、餌はもぐって食べているのだろう。

4月23日 曇時々晴 夕方雷雨

ひょう

夕方沼へ。白鳥は例の栗曲の岸辺、4本杭のある所の、ヨシの所にうずくまっていた。昨日より小さくなったように感じられた。首から胸の羽の上半分にかけて黒っぽくなった。餌を食べるのにもぐるためだろう。それとも、あまり他の深い所で泳いでないためかも知れぬ。6時頃まで見ていたがほとんど動かず、時々首をねじるようにしたりするだけだった。また、うなだれるような恰好もしていた。餌は充分食べているのだろうか。いつも離れているので餌をやることができない。

4月24日 晴 西風

白鳥、朝見えず。帰りには東の岸辺の陸に上り座っていた。首を羽の中に入れて休んでいた。その前は弁天様の西方にいたという。園井さんの話によると、9～10時頃には、やはり弁天様西の方にいたという。あまり元気がないので、福田さんが県へ電話したという。

4月25日 晴後曇

白鳥は朝、東方岸辺の所。帰りは元気よく東の

さん橋から東方へ泳いでいた。色も白くなった。昨日よりだいぶ元気そうに見え、安心した。

4月26日(土) 晴 あたたかし

白鳥は朝、東北隅。帰りにはそこよりやや南方にいて、マコモの新芽を引っぱって食っていた。3回食べた。その間、口ばしを水に入れ、首をあげて水を飲むような動作を数回する。この白鳥のくせのようだ。ほんとうに水を飲んでいるのかも知れぬ。昨日あたりより、首を除いて他は前より白くなった。泳いで活動している証拠だろう。パンを投げておく。夕方再び行く。なかなか見つからず、やっと、東の岸辺から弁天様付近で泳いでいるのを見つけ、安心する。

4月27日(日) 晴後曇 夜雨

10時頃沼へ。舟つき場から見たら、弁天様西方にいた。弁天様にまわって見る。いくぶん元気がないように見える。首の部分のみよごれている。時々口を少し開け、それから水をふくむようにして、首を上げる動作をする。首を横にふったりもする。水を飲むような動作は最初に来た時からのものだ。

4月28日 小雨後晴

白鳥、朝、東の岸辺。動かず。首を羽の中に入れて休んでいる。帰り弁天様東側。結構一日のうち、あちこち動いているから元気なのだろう。そのうち元気に帰れるとよいと思う。1羽だけいるのは淋しい。

4月29日 晴

9時半～11時、沼へ。白鳥は弁天様北側にいた。パンを投げたが風が強く、届かず東へ流れる。白鳥はしきりに胸の一番ふくらんだあたりの中央を、口ばしで押ししたり、そこから上へかき上げたりしている。何度も何度も30分以上やっていた。そして何度かすると、首をふったり、水をふくんで首を上げ、飲んでいるようであった。そのうち風にまかせて弁天様東へ行き、同じことをやっていた。やがて風にまかせて東の方の岸辺に行った

ので、そちらの岸辺にまわり、そこから見ていた。特別の動作もなく、動いていなかったのが帰る。夕方4時頃から6時半頃まで沼へ。弁天様の所で今度は東よりの風をよけてじっとしていた。夕方は寒いくらいだった。

4月30日 曇後夕方より小雨

朝、白鳥は舟つき場より見て動かず。急ぎ弁天様へ。口を開けて口ばしを半分水に入れたりしてどうもおかしい。かなり弱っている。弁天様の岸のコンクリートのそばで、私が行っても動かない。口を開けて水を飲んだりするが、時々口を少しあけ、苦しそうだ。口ばしを半分くらい水の中に入れてしまうのも、首を横にしたままでおかしい。8時15分頃、時間に追われ学校へ。すぐ園井さんに連絡しておく。

12時40分頃、園井さんより白鳥が死んだという電話を受ける。帰り、すぐ舟つき場へよる。小雨が降っていた。明日より魚つりが解禁になるという。その準備の人たちが忙がしそうだ。田中さんや、もう一人の人に様子を聞く。9時半頃、どうも白鳥の様子がおかしいので、舟で白鳥をつれてきたが、もうその時、黄色い水を口からはいて首を曲げていたという。ニワトリよりも軽いくらいだったという。つれてきて医者に見てもらおうとしたが、間もなく息を引きとったという。県の林務事務所の方が見えて、県へ持ち帰ったという。

18日に沼へ舞い下りてきてからのことが色々思い出された。やっぱり具合が悪くて帰れなかったのだと思うと1羽だけに、なおさらかわいそうな気がする。きのう、あの風にまかせ泳いでいたように見えたのは、今から思うと、体力つきて、流されていたのだろう。

柳の葉も開き、ヨシの芽も伸び、葉桜となり、明日からは魚つりの人たちが沼もにぎやかになるだろう。

※ その後、4月13日に死んだと思われる白鳥は、剝製になり、館林市立図書館の資料室に展示されることになった。また4月30日に死

んだ白鳥は、群馬県の鳥獣資料館に保存されることになった。

2 1980年～1981年の記録

今年も白鳥は来るだろうか。10月になると、そわそわしだし、10月1日から双眼鏡持参の出勤となった。稲が色づき、夕暮時には、カモの群が沼を飛びかうようになった。首を伸して少し面白い恰好で飛ぶカモの群を見るのも楽しみになった。水量の減った西の沼べりには、ヨシで作ったトヤが一つ・二つ、としだいに立ち始めた。また11月15日から狩猟解禁の日になるのだ。

11月10日の朝には、伊勢崎市長沼の利根河原にコハクチョウ7羽が飛来したという記事が、また12日には高崎市の井野川に1羽の白鳥の幼鳥が来たという記事が新聞にでていた。しかし、多々良沼には年が明けるまで白鳥がその姿を見せることはなかった。

1月9日 晴 風なくおだやか
朝寒し

8時、家を出る。土手を行くと沼の弁天様西にやや白いかたまり。白サギにしてはふくらみすぎる。もしや白鳥ではないかと心おどる。8時10分、舟つき場より眺める。白鳥だ。6羽。急ぎ弁天様へ向う。係兵衛川の出口付近に6羽。2羽が親で4羽が子のコハクチョウだ。夢のような気持で眺める。ゆっくり泳いでいる。子の方は羽がやや黒ずんでいて、やや小さく、すぐわかる。しばらく見ていると、白鳥は舟つき場の方へ向って泳いでいた。舟つき場の方には人もいない。もしかしたら、運のある方へ行くのだろうかと思っていたら、すぐに、また戻る。戻って来る時には、親が4羽の子を挟んで一列になり、泳いでいた。1羽がコー、と鳴いた。久しぶりに見る姿に、きく声に、いい知れぬ嬉しさだ。学校少し遅刻。国井

さん、町誌編さん室の諸田君に電話する。午後諸田君より電話あり。付近で工事している人の話だと、10時頃飛び立ったという。帰り沼へよって見る。魚とりの舟が何そうも沼中にいた。夕方にも5時頃行ったが、白鳥らしきもの見えず、舟の人々が岸へ帰ってくるころだった。もう薄暗い。白鳥の移動時と、ハズ漁に向く日が、ちょうど重なってしまう。

※ ハズ漁は水底の泥の中のライギョ・ウナギ・コイなどをヤスですぐりながら手ごたえのあったところへ、円錐形の竹カゴのハズをかぶせてとる昔ながらの漁法。冬の穏やかな日に行く。

その後10日・11日には白鳥の姿は見えなかった。

1月12日 晴 午前中穏やか
午後より風

朝今年一番の寒さ。朝、白鳥がいる。弁天様の方へまわる。6羽。9日のものと同じ。場所も同じだ。白サギが西に沢山いた。しばらく泳いでいたが、その後、首をひっこめ、休んでいたのが帰る。夕方沼へ行ってみた。風があったのでハズ漁はやっていなかった。白鳥の姿はなかった。

※ その後1月15日3時半頃、館林市南方の利根川中州付近にいる7羽の白鳥を田島恒氏が確認している。それ以後、白鳥はしばらく、この付近に姿を見せなかった。

2月7日 晴 風なく穏やか

朝、舟つき場西に白鳥が来ていた。5羽。親2、子3羽のコハクチョウだ。皆一生懸命餌をもぐって食べていた。10分程見る。親鳥の羽の色は白

く、色つやもよく、元気そうに思えた。餌を食べているのだから、少しは居つくかも知れないと思った。帰りに沼へよった。白鳥はいない。ハズ漁をやっていた。9時頃からやるという。その為に飛び立ってしまうのだと思う。この沼へ来る白鳥は、たいてい一家族らしい。皆コハクチョウで、今年になって3回目だが、1月9日、1月12日に来た6羽と、今度の5羽はちがうものらしい。親の口ばしの峰は黄色いのと黒っぽいのがいた。黄色い方が少し体が大きいように思える。午後、新潟県の本田清宅へ電話し、日本白鳥の会の事務所についておたずねする。

2月16日 曇後晴

朝、沼の北西、蓮の所に白鳥5羽。親2、子3羽。2月7日に姿を見せて以来、ずっと見えなかった。昨日で猟狩期間が終った。さっそく、やってきたのだ。これなら居つくかと思っただが、やはりハズ漁をやったらしく、帰りには白鳥の姿見えず。もう少し近づいて親の口ばしの峰がよく見ればと思う。親は羽がとても白くきれいで、つやもよい。また来ることを願っている。

2月18日 晴時々曇 氷厚し

昨日はいなかったが、今朝は白鳥が沼の北西、蓮の所に5羽いた。16日に来た白鳥らしい。一生懸命もぐって餌を食べていた。10分程眺める。1羽の親の口ばしの峰は黒っぽい。子の方は首の部分黒っぽく、横から見ると、口ばしの先端だけ黒く、その内側はピンク色をしている。帰りにも20分程見て帰る。今日はハズ漁もなく、白鳥は一日いたらしい。これなら居つくかも知れぬ。安心していられば、餌は蓮で充分間にあうだろう。福田さんは餌のこと心配しているが、私自身迷ってしまう。なるべくなら、やらずに過したい気がするし、やってみたい気持がないわけではない。夜、日本白鳥の会に入会手続をする。

2月19日 曇時々晴 氷厚し

白鳥はやはりいた。これで初めて沼へ一泊した

ことになる。しきりに蓮の所で餌を食べている。帰りにもしばらく見る。幼鳥の口ばしは思ったより赤くない。成鳥の方は羽も白く、口ばしの黒もくっきりしている。気のせいかな、昨シーズンの親より若いように思える。皆無事だ。

2月20日 曇時々晴

朝も帰りも白鳥は蓮の所で、もぐって餌を食べている。見る時はほとんどいつも食べている。

2月21日 晴

朝、ハズ漁がありそうな天気なので、白鳥が帰ってしまうのではないかと気になり、写真とりたくなる。近づくと今朝は餌を食べていなかった。比較的近くにいたが、ずっと遠のく。警戒しているらしい。そのうち白鳥はコーン・コーンと鳴き始め、鶉古城の方へ少し泳ぐ。と、いっせいに飛び立った。沼を左まわりに一回転して、弁天様西の白サギのいる所に舞い下りた。久しぶりに、夢のような飛ぶ姿を見た。沼のまわりは今朝凍っていた。帰り、白鳥は元に戻り、蓮の所で餌を食べていた。夕方再び沼へ。風強く寒し。

2月22日(日) 晴後曇

白鳥は蓮の所から弁天様西へ泳いで行ったが、そこで子供達がさわいだので飛び立ち、沼を一まわりして、また弁天様の西へ舞い下りたという。夕方沼へ。白鳥は蓮の所で、しきりに餌を食べていた。安心する。これで居つくだらう。今日が日曜だから、見に来た人が多いと思う。

2月23日 曇後雪

白鳥は蓮の所で元気に餌を食べている。親の首の所が少し黒っぽくなった。泥の中に首をつっこんで餌を食べているせいだろう。子の方もよく餌を食べている。帰りは雪だった。一番西の方で、餌は食べておらず、泳いでいた。雪が降っていても姿が見えたので安心して帰る。

2月24日 曇後雪 後曇

白鳥は元気に蓮の所で餌を食べている。夕方も行ってみた。最初弁天様の西にいたが、そのうち

泳いで蓮の所へ来た。親・子・親・子・子の順で泳いで来た。蓮の所へ来ると、すぐもぐって餌を食べ始めた。親の所に子が近づくと、子の尾翼の所を親が口ばしでつついていた。食べている所へ近づくと親子でもきびしい。皆元気だ。

2月25日 晴

白鳥は、いつもいつも蓮の所で餌を食べており、食べる事に費す時間がほとんどだ。朝夕見る時はほとんどそうだ。帰日も食べていた。近づくと、いったん弁天様の方へ向い、泳ぎ始めたが、私が戻ると、白鳥もひき返し、アヒルのいるこちらに近い方へ来て、アヒルを追いとばし、餌をもぐって食べ始めた。

2月26日 晴 寒し

沼結氷。中央部のみ氷張らず。白鳥は弁天様西方。首を曲げてお休み。帰りには氷もとけて、強い西風の中、蓮の所で元気に餌をあさっていた。日本海上空 5500メートルにマイナス 48℃の寒気がやって来ているという。今ごろすごい寒さだ。

2月27日 晴 寒い

今朝、この冬一番の寒さだという。沼結氷。白鳥は弁天様西方にうずくまっていた。舟つき場西には、氷が流されて、2～30センチの高さに積った。昨夜雪も少し降った。帰り、白鳥は蓮の所で餌を食べていたので安心する。

2月28日 晴

沼は中心部を除き結氷。白鳥は弁天様西にて朝寝。帰り 12時半ごろ沼へよる。白鳥は弁天様西北方であまり動かず。蓮のある所も結氷しており、それが音をたてて割れ、溶けだしているところだった。凍っているので白鳥は餌を食べていないだろう。ハズ漁の舟、二そう。白鳥が飛び立たなければよいがと思う。夕方また行く。白鳥は蓮の所で一生懸命餌を食べていた。舟つき場の管理人の田中さんは明日で 15年の務めを終えるという。漁業組合長の福田さんは、まだくずパンの用意をしている。餌をやるつもりらしい。田中さんも、

そのことは意にそわない感じだ。あまり餌を食べていなかったせいか、夢中でもぐって餌を食べており、今までに一番近づけた。もし餌をやり始めるのなら、給食の残りのパンをやろうかと思ったりする。それがいいのかどうかわからない。余っているものをむだにはしたくないと思うし、また沼全体の面から白鳥の保護について考えていかなければならないのではないかとも思い、餌をやることについては迷ってしまう。

3月1日(日) 曇後一時晴

10時頃より沼へ。白鳥は弁天様西で朝寝。そちらへまわり眺める。ほとんど動かず。孫兵衛川の流れ口のそばである。3時頃再び沼へ。白鳥は蓮の所で餌を食べていた。いつもの、若い写真をとる人たちがいた。かなり年輩の方で、無神経に白鳥の写真をとる人がいたので、若い人たちがおこっけい、私が代表で、その人を怒鳴りつけてしまった。

3月2日 晴

朝、白鳥は蓮の所で餌を食べていた。このごろお互いに少し離れて食べていることがある。少し近づいていけるようになった。9時5分、3羽が弁天様の方へ向い泳ぎ始めた。コー・コー・と鳴きながら泳いでいる。他の親1・子1の2羽はまだ餌を食べている。しばらくしてから、その2羽も鳴きながら泳ぎ、5羽がほぼ一つになったころするどい声で、コー・コー・と鳴きながら飛び立った。東へ向って飛び、右まわりに沼の東方松林上空を通り、鶉古城の森へとまわり、弁天様西のいつもの所へ舞い下りた。帰りは5時半近くだったが、日没後も一生懸命蓮の所で餌を食べていた。元気だ。

3月3日 曇時々晴

朝、かなり近づいても逃げなくなった。あまり近づきすぎると泳いで少し離れてしまう。よくもぐって食べている。タタラの金糞のある岸辺に蓮の切れ片が流れついている。拾って来る。白鳥が

食べた残りや、ちぎれたものが風に流されて岸に着くのだ。羽も2本落ちていた。夕方再び沼へ行く。白鳥は相変わらずよく食べている。子3羽が特によく食べていた。親は羽づくろいしたり食べたり。この頃、警戒心が少なくなったようだ。

3月4日 雨後夕方時々晴

朝夕、白鳥は餌を食べていた。元気そうだ。本田清氏より白鳥の会の件で手紙あり。早速入会手続。夜、「みちのくの白鳥伝説」のテレビをNHKで見る。

3月5日 晴時々曇

朝、相変わらず白鳥は蓮の所にいた。今朝は珍らしく餌を食べずに、舟つき場に近い方を泳いでいた。帰り夕日がきれいだった。舟つき場の管理人が、新しくひっこして来るらしく、車が出入りするので、白鳥が緊張し、コー・コー鳴きながら、岸を離れた。飛ばずにまた西の方へ泳ぎ、もどって来た。

3月6日 晴たり曇ったり

白鳥は朝、蓮の所で泳いでいた。のんびりしている様子。帰りには、もぐってよく食べていた。

3月7日 晴たり曇ったり

朝、白鳥は蓮の所へ。帰り 12時半ごろから3時まで沼へ。白鳥は蓮の所へいたが、人が来たので弁天様の西へ。その付近に今度は人がきて、またこちらへ泳いで来た。弁天様西では、羽を広げたり、水面を少し飛んだり、激しく運動していた。

3月8日(日) 晴後曇

7時45分～8時40分、沼へ。8時27分、急に西風が強くなった時、1羽の子の白鳥が鳴き、他のも鳴き始め、首を曲げて少し泳いだら、急に西へ向って飛び立ち、沼を低く左まわりに一周して、また目の前付近へもどった。一番近くで飛ぶのが見られた。夕方沼へ。泥の中へ首をつっこんで餌を食べていた。

3月9日 曇後雨

白鳥は朝、蓮の所。カンくずなどがいっぱいあ

り、それを拾い集めていたら、その音で少し遠のいてしまったが、まだ戻る。しきりに蓮の所でもぐって餌を食べている。夕方沼へ。やはり蓮の所で食べている。カンくずが気になり、少し集める。

3月10日 晴

白鳥は朝夕蓮の所で採餌

3月11日 晴

白鳥は蓮の所。行きも帰りも。日本白鳥の会に入会でき、パッチが届いた。会誌を興味深く見る。会員が少ないのに驚く。

3月12日 曇後晴

朝、白鳥は弁天様西北。弁天様東へ舟がでて、柳の枝を運び、水中に沈め、魚の棲みかを作っているらしい。そのため、白鳥は沼の岸辺にいた。帰りには蓮の所。この頃、だいぶ安心して食べている。1羽離れて採餌していたりする。他のが、コー、と呼ぶとまた戻る。集団行動は行き届いている。誰かが私の集めたカンくずを整理しておいてくれた。とても嬉しい。

3月13日 曇時々晴

夕方沼へ。白鳥は蓮の所で採餌。親1羽はしきりに食う。他の4羽も食ったり、羽づくろいしたり。そのうち子3羽は西へ泳ぎ出し、別の所で採餌。しばらくして親の1羽がコー・コーと鳴きながら子の所へ。もう一方の親は元の所で寝ている。こんなに親子が離れたのを見るのは初めてだ。

3月14日(土) 雨後曇

朝、蓮の所。12時半頃も蓮の所。午後、雨もやんだので1時間程沼へ。ストップウォッチで餌をもぐって食べている時間を計る。最長は子の方の17秒。親子ではほとんど変わらず。そのうち3羽が東へ向って泳ぎ出す。他の1羽もやがて泳ぐ。もう1羽の子は、餌を食べていて、ついていけない。そのうち、1羽がコー・コーと鳴くと、採餌していた1羽も泳いでいき、一緒になった。舟つき場近くで餌を食べたりしていたが、やがてまた西の方へ泳いでいった。霧雨も降ってきたので帰

る。風は南よりで雨雲。

3月15日 小雨後曇
朝、7時半～8時半、沼へ。白鳥どこにもおらず。南よりの風だ。低気圧が台風なみに北海道で発達。12時より夕方まで西風強し。白鳥は帰ったのだろうか。やはり帰ったのだろう。昨日、今日と南よりの風がふいた。

3月16日 風いくぶん強く晴
白鳥、白サギ見えず。

3月17日 晴 西風少し
朝、白鳥がいた。沼中央から蓮の所へ泳いできて、じきりに親2羽、子1羽が採餌。他の子2羽はいねむり。やっぱり2日間は、どこかで風をよけていたらしい。同じ5羽である。親2羽とも峰の先端が黒く、次に黄色の部分が毛の所まで続いている。子の方は横から見ると、先端、鼻孔の部分が黒で、その付近がピンク色、その次が黄色で羽毛に続く。夕方沼へ。はじめ白鳥は舟つき場西で4羽は休み、1羽の子だけ採餌。そのうち2羽が遠くの蓮の所へ泳いでいき、採餌。他は休み。そのうち夕暮になり、5羽とも西の蓮の所で盛んに餌を食べ始めた。

3月18日 晴
朝、白鳥は舟つき場近くで休んでいた。子の1羽は少し離れて蓮の所で採餌。このごろ少し離れて行動することが多くなった。気のせいかな、前より全体の白鳥が朝休んでいる事が多い。夕方1時間程沼ですぐす。かなり近くまで行っても3羽は休んでいて、羽づくろいしている。足を片方羽の間に入れたり、面白い恰好している。

3月19日 晴後曇
朝、白鳥は蓮の所。帰りも蓮の所。今日はよく食べている。初めてパンをやる。

3月20日 雨後晴後曇
朝、舟つき場に近い蓮の所。このごろ、白鳥はその辺で夜を過ごすのかも知れない。夕方5時20分頃沼へよる。ちょうど親子3人がさん橋を渡り

白鳥を見に行つたところ、白鳥は驚き、泳ぎ初め。そのうち首を前後に曲げ鳴き始めた。子・親・子・親・子の順に泳ぎ、間もなくその順に飛び立った。沼の東岸近くに、左まわりに飛んで着水した。

3月21日 曇後小雨
7時半～8時、沼へ。白鳥は蓮の所近くにいた。パンを3枚、ちぎってやったら、しばらくして、親、次に子が来て、他の3羽もおそろおそろ食べに来た。7～8メートルの所まで来た。全部食べずに、また蓮の所へ。そのうちアヒルが残りを食べに来た。一番近くで白鳥を見られた。伊勢崎の小茂田さんに電話してみる。利根川の川幅は約800メートルで、今日17羽になったという。

3月22日 雨後曇
夕方沼へ。白鳥は蓮の所。人がよると少し岸辺から離れて、やがてまた戻る。

3月23日 晴
白鳥は朝蓮の所にて採餌。帰りは、漁業組合の人達がさん橋作りをしているため、白鳥は西の隅の方で泳いでいた。餌もあまり食べていないのではないだろうか。パンを持ってきたので明朝でもやろう。

3月24日 晴 午後曇
朝夕、パンやる。安心して近づいて来る。夕方はパンを食べた後も少しもぐって採餌。その後、いっせいに羽づくろい。満腹後はよく羽づくろいするらしい。

3月25日 雨後曇
朝、黒パン3個、白鳥とアヒルにやる。白鳥の親の1羽が最初近づいた。大部分、アヒルが食べた。ずいぶん安心して、近づくようになった。帰りには互いの白鳥が少し離れて採餌。

3月26日 曇時々晴
朝、沼へよりパン3個やる。アヒルも喜んで来る。白鳥の1羽がなかなかよりつかない。それでもやがて来て食べた。岸辺のマコモの芽なども食べているようだ。帰りは舟つき場近くの修理をし

ている人がおり、白鳥は西の方で採餌していた。
今日で給食が終りとなるので、パンの残りを全部
もらってきた。

3月27日 晴 西風 冬型

白鳥は朝、蓮の所西方。帰り強風。舟つき場東
の修理。白鳥は弁天様西方。

3月28日 晴

朝、白鳥にパンやうていく。コーイ・コイコイ
と呼んだら来た。親の1羽が初めに来る。もう1
羽の親は用心ぶかい。かなりアヒルに食べられる。
それでも残りを一生懸命食べている。帰りは子供
たちがいたり、沼の北側で工事したりしているの
で、白鳥は弁天様西にいた。

3月29日(日) 曇

6時半～8時、沼へ。白鳥はいつもの蓮の所に
いた。アヒルが喜んで来た。パンをやった。ずい
ぶん眺めていた。そのうち魚つりの子供たち3人
が来たので、白鳥は弁天様西の方へ泳いで行って
しまった。夕方、4時10分～5時、見に行った。
弁天様西にいた。今日は朝からずっとそこにいた
らしい。夕方遅くか、夜、餌を食べるのだろう。
今日初めてウグイスの鳴くのを聞いた。

3月30日 晴時々曇

朝のうち西風、後南西の風。風つめたし。8時、
白鳥はいない。つりの小学生数人。帰り12時半
ごろも見えない。つりの子供たち多し。昨日は朝
だけで、あまり餌が食べられなかったろう。今朝
どこへ移動したのだろうか。それとも帰北したの
だろうか。もしかしたら東方の城沼へでも行って
はしないかと、久しぶりに城沼へ行って見た。し
かし白鳥の住める環境ではなかった。沼幅がせま
く、餌になるものもなく、水深が深すぎるし、安
全地帯もない。4時半ごろ再び多々良沼へ。白鳥
の姿なし。アヒル見たり、カン拾ったり、白サギ
やカイツブリ、カモなど見たりする。一日中、う
すら寒いような陽気だ。このごろ毎朝、コジュケ
イが鳴いてにぎやかだ。桜のつぼみもふくらんだ。
30日午後6時の気圧配置は北高型で、日本海に
は1026ミリバールの高気圧、太平洋側は1014
ミリバールの低気圧。北海道東方にも1004ミリ
バールの低気圧。昨日、29日午後6時の気圧配置
もほぼ同じだ。

※ この日が今年の白鳥の帰北の日となっ
た。

4. 多々良沼の白鳥について

生れて初めて野生の白鳥を見てから二年目にな
った。いったい、白鳥の研究にはどんな問題があ
るのだろうかと自分なりに考えてみた。一つには
白鳥の動物分類学上の問題や、その鳥類学上の進
化系統の問題があるであろう。また、その人との
関わりの歴史もあるであろう。それに個を中心に
考えるなら、白鳥の誕生から死までの問題になり
それが一年間で言うなら、約半年間の北極圏での
生活と、約半年間の越冬地での生活の問題になる
であろう。その間の飛来、北帰に関する渡りの問
題もあろう。また、越冬期間中の渡りや越冬地の
条件、越冬地での生活の問題もあろう。群や家族、

個とその相互の関係についても研究の分野はある
であろう。白鳥の系統・一生・一年は、また最終
的には白鳥の一日にも連ってくるであろう。この
他にも気のつかない色々な研究の分野があるのだ
と思う。

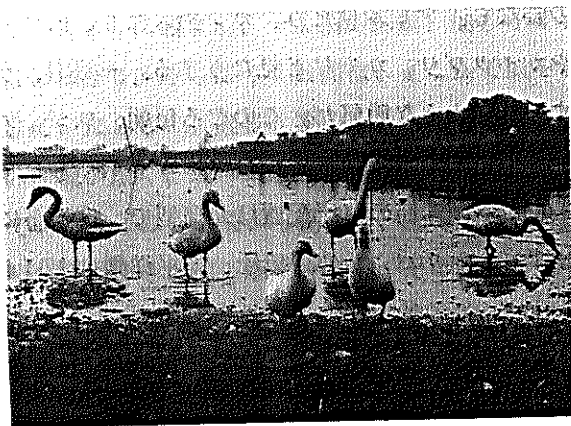
最初、私の興味は群の最少単位と思われる家族
らしき白鳥がこの多々良沼へ飛来し、そこで採餌
していた点にあった。そこから、個々の白鳥や、
家族の様子が知りたかった。二年間、うっとり見
とれていて、見おとしている点が多いと思う。次
に感じた事を記してみたい。

○ 飛来の時期とその構成

まず多々良沼へ飛卒したのは、すべてコハクチ

ウであった。1979～1980年にかけては、10月中旬から12月にかけて最初飛来し、断続的に沼に来ていたものと思われる。沼が狝区になっているため、定着しにくいのであろう。このコハクチョウは5羽で、そのうち2羽が成鳥、3羽が亜成鳥と考えられた。この5羽は、その後も沼へは断続的に飛来していて、狩猟の終わった2月15日以後もなお定着せず、定着したのは3月4日から4月17日までの間であった。その間にも

写1 1979年～1980年飛来の白鳥
(手前2羽はアヒル・船付場西)



3月8日・9日・13日には姿を見せず、一時、沼を離れた。3月8日～10日にかけては強風があり、3月8日には東方の城沼で5羽の白鳥飛来が確認されており、8日には、たぶん城沼へ移動していたものと思われる。3月8日・9日の移動は、強風をさけるための移動のように思える。10日には戻り、沼の東方、一番風下にいた。なお5羽のうち成鳥1羽は4月12日夜から13日朝にかけて病死し、4月14日、東の岸辺で発見された。その後4日目になった4月17日、この群に他の1羽のコハクチョウの成鳥が飛来してきて行動を共にするようになった。その翌日の4月18日にこの5羽は帰北した。また、その日別のコハクチョウ1羽が飛来し、定着していたが、この白鳥は何らかの原因で帰北できずにこの沼へ不時着したのと考えられる。この白鳥は4月30日朝、死亡した。第一年次は、一家族と思われる

成鳥2羽と亜成鳥3羽、それに別々の成鳥2羽が1羽づつ飛来した。そのうち、5羽の群の成鳥1羽と、後から飛来した成鳥1羽が死亡した。

一群と思われる5羽のうち、成鳥2羽は、片方がやや大きめで口ばしの峰の部分の黒と黄色の部分の大きさがちがひ、見ている時には別々に見ていたつもりであるが、雌雄の別はわからない。亜成鳥の方は3羽とも峰の部分がV字を三つ連ねたような黒い色をしており、初め成鳥よりやや小さく、首の部分が黒っぽいので成鳥とは、はっきり区別できた。帰北する頃には、この首の黒っぽさはほとんどなくなった。これらの7羽の白鳥が国内に来てから、どこにいて、なぜ一つの群だけこの沼へ来たのかわからない。一番近いのは西方約26キロメートルの群馬県伊勢崎市長沼町の利根川で越冬している何10羽かの一団であるが、そういうもの一単位が、時々別行動をとっているのか、あるいは、もっと流動的に行動している別の小集団みたいのがあるのか、その辺がわからない。また、1980年の白鳥の会による定時定点調査を見ても、後から2羽が飛来した頃には、ほとんどこの近辺には白鳥は帰北していなかったようである。なお、後の1羽が飛来して、成鳥1羽を失った群にすぐ溶けこんでいったように思えたのは、帰北する頃には、新しいカップルが生れる、という伊豆沼の白鳥についてのNHKテレビを見ていて、もしかしたら、そういう例だったのかも知れないと思った。また3月30日、人が来てそれに驚き、飛び立ってから以後、5羽の白鳥はまた用心深くなり、ほとんどパンは食べなくなった。この事と1羽の白鳥の死とに関連があるかどうかわからない。4月になり、成鳥と亜成鳥が少し別行動をとったのは、亜成鳥の親離れの現われかと思っていたが、これは誤りらしく、病気の白鳥に他の1羽が付添っていたのだと思える。また、コー・コーとしきりに鳴いても飛び立たなかったのは、1羽が病気のため帰れなかったのだと思う。

帰北はそのために遅れたようである。

1980～1981年にかけては年末には飛来せず、年が明けてから二グループ飛来した。1月9日と12日に同じものと思われるコハクチョウ6羽が飛来した。成鳥2羽、幼鳥4羽の一群である。この群はそれきり姿を見せず、次には2月7日に別の群・5羽が飛来した。この群は成鳥2・幼鳥3からなり、猟期の終わった2月16日にまた飛来し、2月17日・3月15・16日を除いて3月29日まで定着し、3月30日帰北した。3月15・16日は強風であり、一年次のものと同じく、風をよけるため他へ一時移動したものと考えられる。

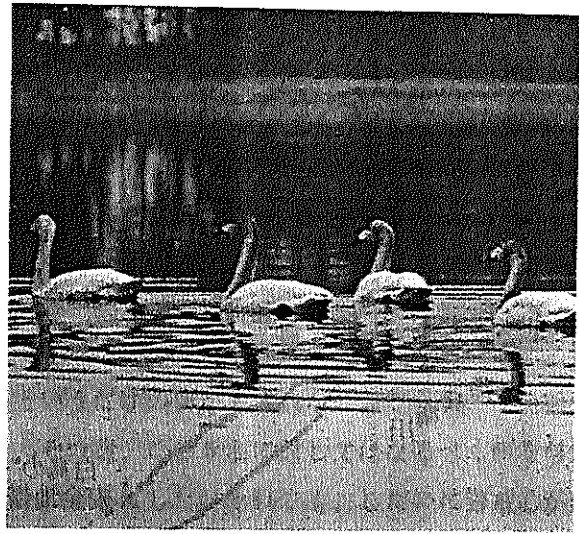
。多々良沼の特性と白鳥の生活

まず採餌の点から見ていきたい。前に見たように、多々良沼は冬期の水深が1メートル以下となる。また1981年には一度、沼全面が凍結したが普通の冬では周辺部が薄く氷の張ることはあっても、沼全域が凍ることはほとんどない。沼の西部が一番陸化しており、ヨシの他にヤナギの見られる部分がある。その他は西岸・北岸・東岸・南岸周辺にはヨシが生え、その内側にはマコモが生えている。南側には、ガマやフトイの生えている所もある。また一番注目したいのは、沼の北岸にあ

写3 舟つき場の西の蓮



写2 1981年飛来の白鳥
(沼北側より)

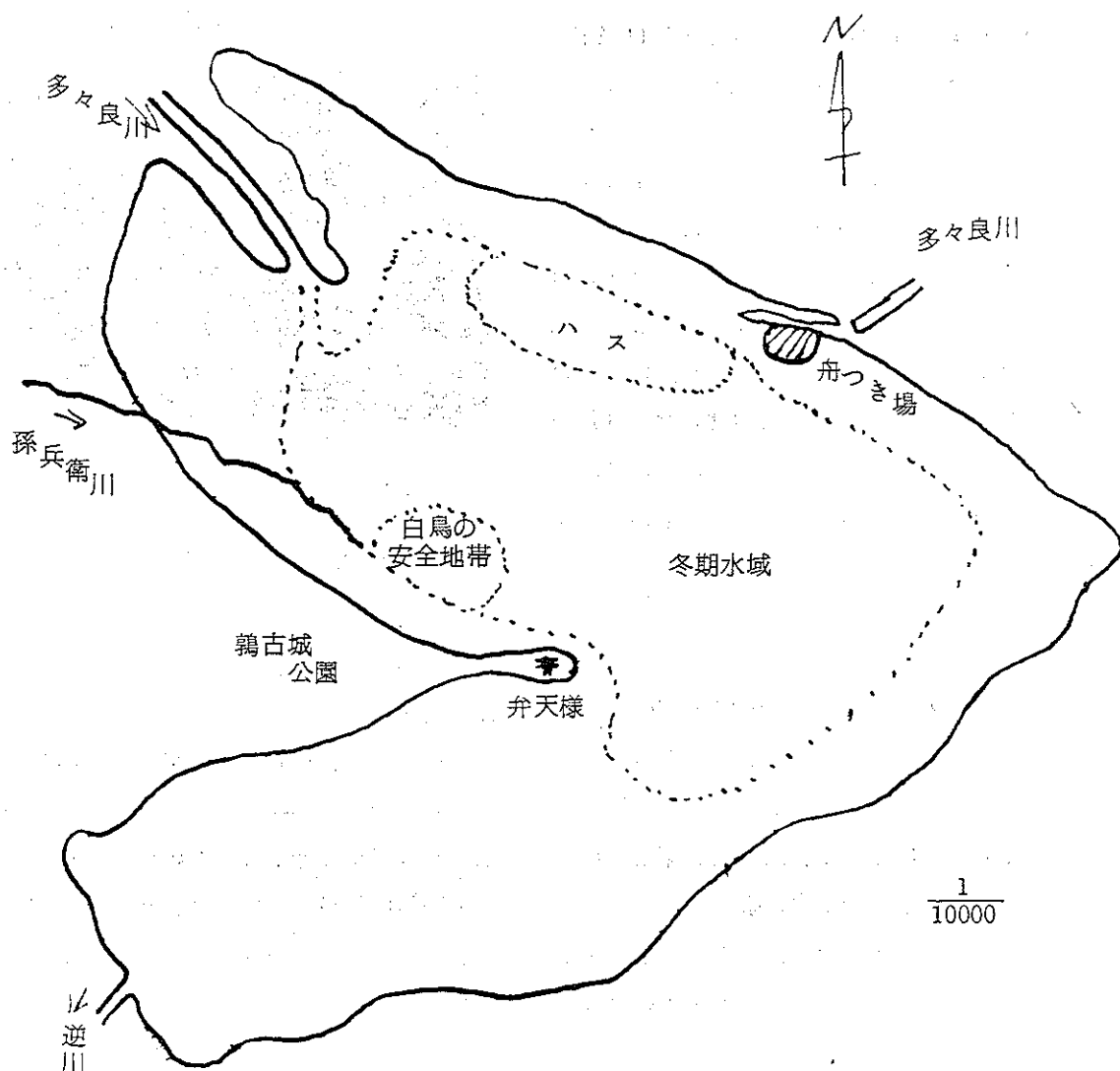


たる舟つき場西方、約5600平方メートル程の範囲に蓮が生えていることである。これは3・4年前、城沼より移植したものが増えたのだという。

白鳥が銃声の危険をおかしてまで、この多々良沼へやってくる理由は、この東毛地方で一番水面の広い沼に蓮が生えており、それがちょうど冬期の水深からも食べやすい位置にあることである。また、アヒルのいることも一役かっているかも知れない。

1979～1980年にかけて来た5羽の白鳥はやはりこの蓮が目当てのようであった。初め白鳥はこの蓮の生えている所で採餌していた。漁業組合関係者の方々が2月中旬頃よりパンなどを与えた。私自身も3月18日頃よりパンを与えている。そのころはパンと自然と両方であった。しかし、しだいに白鳥もパンを頼りにしだした。その方が楽なのだろう。3月30日の夕方、パンを食べている最中、自転車に乗った人が来たのに驚いて飛び立ってからは、あまりパンを食べに来なくなった。蓮の所にさえ来るのが少なくなった。そして、その頃から親の1羽は、すでに体調をくずしていたのかも知れない。5羽の白鳥は、それから、今まではあまり行かなかった弁天様南方で採餌して

図4 多々良沼の略図



いた。その付近に蓮はなく、マコモのみである。水中や泥の中に、他のどんな食べ物があるのかわからないが、この5羽で見ると、採餌は次のように変らざるをえなかった。①蓮 ②パン・茶がら・くず米・みかんの皮・魚などの人為的に与えた餌と蓮の採餌 ③蓮 ④マコモ。この①と②の間に給餌行為 ②と③の間には人間に対する警戒心 ③と④の間には、さらに、それに親1羽の体調のくずれが関与していたものであろう。

1980年4月18日に飛来し、4月30日に死亡した白鳥は最初から、水をふくむような動作を何回もしていた。また、蓮の所に行ったのを見ていないから、おそらく弁天様周辺で採餌していた

ものと考えられる。それは最初来た時と、その後の首の部分のよごれでわかる。しかし、おそらく体力が弱っており、当初から充分には採餌できなかったのかも知れない。風向きを考えてパンがその白鳥のいる方へ行くように何度か投げ与えたが、食べた様子は見ていない。

1981年には、前に見たように二つの群が飛来し、後の群5羽が3月29日まで滞在した。最初の群は、親2・幼鳥4羽のグループで、1月9日と12日に飛来し、その日に飛び去っている。いずれも、朝飛来していた所は弁天様西の、孫兵衛川川口付近である。その付近には、ほとんど餌がない。ただ、安全地帯なのである。この群は空を

写4 蓮のところで採餌する白鳥



飛ぶセスナ機の小さな音にも敏感に反応し、警戒していた。おそらく、その日がハズ漁と重なったため、沼へ偵察に来ただけで飛び去ってしまったのであろう。後の2月7日に最初に来た群5羽は親2・幼鳥3羽からなり、当初より蓮の所で採餌していた。これは滞在するかも知れないと思ったのは、最初からその蓮の所で採餌していたからである。そのため、その親2・幼鳥3羽のうち親は昨年来た親かなと思ったが、どうも大きさがちがうように思えた。一まわり今年の白鳥の方が小さく若々しいように思えた。残念ながら、昨年の親の口ばしと今年のものちがいが、よくわからないのである。昨年の垂成鳥と思われる3羽なら、V字形を3つ重ねたような峰をしていたのだが、それも峰の色が変化すれば、今年の親かどうかわからないのである。ただ、最初の日から蓮の所へ直行したのが不思議であった。あるいは前の6羽の一群が用心深く、次の5羽の群の方が大胆だった

写5 1981年飛来の白鳥の幼鳥



というだけの事かも知れない。

その後、この5羽に対してはなるべく餌を与えないようにした。それでも、しだいに警戒心が薄くなり、滞在中、ずっと蓮の所で採餌していた。3月17日以降約一週間少し私がパンを与えたが自然採餌をずっとしていた白鳥なので、あまりパンをあてにせず、独立心が強かった。結果的には与えない方が良いのだが、白鳥を近くから見ようとしたり、多くの人に近くで見いただくためには、餌の投与も必要だろう。白鳥自身のためにはこの沼の蓮の量からして、今のところ餌を与える必要はないだろう。蓮も食用として植えたのではないという話なので、被害という心配もない。なお白鳥が好んで食べる蓮根の成分が知りたくて調べた結果、表1の如くであった。100グラム中2.6グラムは水分である。炭水化物の糖質13.4グラム、繊維0.9グラムで他の成分より特にめだっている。

1. 野菜類・きのこの類の成分表

表1 れんこんの成分表		カロリー Cal	水分 g	たん 白 質 g	脂 質 g	炭化 糖 質 g	水物 繊 維 g	灰 分 g	無機質				ビタミン					
									カル シ ウ ム mg	ナ ト リ ウ ム mg	リ ン 酸 mg	鉄 mg	A		B ₁ mg	B ₂ mg	ニコ チ ン 酸 mg	C mg
													A 効 力 I.U.	A I.U.				
根	だいこん(生)	25	92.7	1.1	0.1	4.7	0.8	0.6	38	85	18	0.3	0	0	0.03	0.04	0.2	30
葉	れんこん	51	85.8	1.3	0.2	10.9	1.1	0.7	35	57	35	0.5	1,300	0	0.06	0.04	0.6	7
菜	ほうとう	75	78.8	4.1	0.1	14.8	1.5	0.7	47	45	71	0.8	0	0	0.30	0.05	0	2
類	かぶ(生)	25	92.1	1.5	0.1	4.3	1.0	1.0	25	44	30	0.3	0	0	0.05	0.03	0.6	20
類	れんこん	62	82.6	2.4	0.1	13.4	0.9	0.6	20	30	80	0.5	0	0	0.05	0.03	0.5	20

○ 白鳥の行動

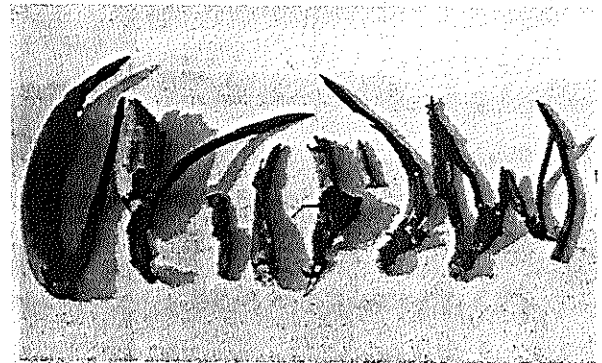
次に白鳥の沼での行動について記してみたい。全体的に見ると一年目の5羽と二年目の5羽には大きな違いがあった。これは人為的なもので、一年目には給餌行為により、白鳥の行動に変化が生じた。人間の与える餌を頼りにして、あまり自然の採餌を行わなくなったのである。また、充分それで餌が間にあったせいか、遊泳する機会が多かった。ところが、二年目の白鳥に対しては充分な餌は与えていないので、ほとんど自力で採餌していたため、多くの時間が採餌に費されていた。私自身観察できるのは、朝8時前後と夕方5時前後が多かったが、警戒している時の他は、ほとんど採餌している時が多かった。このように、人為的に餌を与えない状態では、ほとんどの生活は採餌に費される。ただ、朝から夜までの一日中を継続観察しないと、その一日における割合は、はっきりしない。

蓮根の採餌は浅い沼べりの泥を足でかきまわす事から始る。それによって泥の中を掘り、また蓮根を探す役目を果しているのであろう。それがすむと、今度はもぐって水中で食べる。首だけを入れる場合もあるし、逆立

ちして胴半分から、首全部を水中に入れてしまう場合とある。餌のある所の深さによるのだろう。水面にでてから餌をかんでいる様子はない。

1981年3月14日に、そのもぐっている時間をストップウォッチで計ってみた。それによると、コハクチョウの場合、ほとんど親と子の間に差がなかった。その後、オオハクチョウの例を読む機会があり(5月29日)、親と子にちがいのあることを知った。(吉川 1980)計測の方法にも

写6 白鳥の好む蓮根・岸に流れついたもの



よると思い、なるべくちょっともぐった場合は親子とも除いて計ったので、また改めて計る機会が得られれば全体について、もう一度計測してみたい。もぐる姿勢についても不統一であった。

採餌がすむと羽づくろいに移るが、たいていの場合、それに順序があるらしい。一度は採餌のあと次々に5羽がバタフライのような恰好をして首や体を屈伸させた。その後、大きく羽ばたきをし

表2 もぐって餌を食べている時間

親・幼別	もぐり方	もぐっている秒数(1~10回)	平均
親	首だけ	13 13 12 13 10 8 11 10 12 10	11.2
幼 No.1	逆立	11 11 13 14 11 16 17 11 11 10	12.4
幼 No.2	首だけ	11 12 11 9 9 13 13 8 13 13	11.2

それから羽をひっこめ、今度は胸のあたりを口ばしでかきあげたり、かむようなことをしてから次に羽づくろいになる。これも羽を広げないまま、くしゃくしゃ首をねじ曲げて、あちこち羽づくろいする場合と、片羽だけ広げ、その下に片足を入れてつくろったりする場合がある。羽づくろいがすむと次は休憩である。多くの場合、首を羽の間に少し入れて、じっと休んでいる。

次に白鳥の警戒について見ていきたい。白鳥は

多くのものに警戒の反応を示した。まず最初に危険を感じた白鳥が、首をまっすぐにして、コーノと鳴くと、他の白鳥もいっせいに行動する。白鳥にとって最大の天敵は人間である。人の姿、人声、自動車の音、飛行機の音、カメラのシャッター音など、ほとんどのものに反応を示す。白サギが近くに来ると首をそちらに向けて口をあけ、威嚇する。危険を感じたものとの間にある程度の距離がある場合は、泳いで遠ざかるだけにすぎないが、本当に驚けば飛んでしまう。最初、中心になる白鳥でもいて、それが指示して行動を起すのかとも想像していた。しかし、そういうことはなく、危険を最初に感じたものが、子であれ、親であれ、最初に鳴き、他の鳥に知らせる。

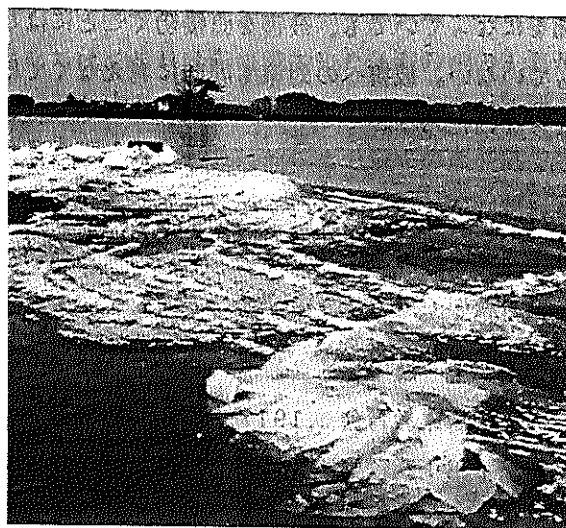
白鳥の飛ぶところを見たのは少い。二年間を通

して10回に満たない。この沼での白鳥の飛翔理由は三つに分けられる。一つは危険を感じた場合二つ目は、単に沼の中を移動する場合、さらに三番目は、訓練のためのものである。ふつう、いくぶん泳ぎ出し、首を前後に曲げたり伸したりしてコー・コーと鳴きながら5羽が一行になった頃、先頭から助走して飛ぶが、その頃は親子には関係なく、また一定してないようである。また、突風が吹いた時は幼鳥が急に鳴き出し、一行にならないうちに後の方の鳥から飛んだこともある。水面をけて助走する距離は、せいぜい数メートルにすぎないように思えた。1981年、帰北前の天気の良い日には助走のみ訓練したりしていた。採餌羽づくろい、休憩、遊泳、飛翔などの運動が白鳥の一日の生活である。

○ 沼における白鳥の行動範囲

白鳥は、採餌域として沼の北西にある蓮の生えている部分を特定地域にきめていた。周辺部にはマコモなどが生えているにもかかわらず、蓮を好んで食べた。1980年、そこによりつかななくなった時のみ、雨のマコモの生えている所で採餌していた。弁天様西方は鶺鴒古城の森の風下にあたり、沼の西にあるので全体的に風をよけるのに良いのかも知れない。しかし強風の時は群が二回とも他の地に避難しているので、あるいはそこが安全地帯のせいかも知れない。人の行く機会が少く、近よれないためだろう。

写7 白鳥の安全地帯
(写真右上方、鶺鴒古城手前、左は弁天様)



5. これからの多々良沼について

多々良沼は灌漑用水と漁場という二つの大きな役割をになっている。そこへ近来、白鳥が飛来するようになった。滞在するようになって二年目である。

白鳥が最も警戒するのは銃声と人間であろう。

将来、多々良沼は館林市と邑楽町にわたる県立公園になるという計画があるという。すでにその一環として、邑楽町側では、弁天様、鶺鴒古城公園の整備が行われている。町誌編さん会議の折、白鳥のことをお話したところ、亡くなられた前邑楽町町長・小島常男氏は、「県立公園になれば禁猟区になるよ」と言われていた。

白鳥は、安全で、しかも餌さえ得られればもっとやって来るであろう。蓮は好物のように思える。また、飛来してから数日間、安心してられないと定着しない。その辺のハズ漁との関係がある。白鳥の移動する穏やかな天気の良い日とハズ漁が重なるからである。しかし、一度、ある程度慣れてからなら、ハズ漁の舟がでて白鳥は西の隅にいて逃げてはいない。

県立公園になるにしても、蓮の食べられる、安心できる地域や安全地帯の確保が白鳥にとっては大切であろう。また、沼に流れてむ川の水質の問題、アキ缶を初めとするゴミの問題も各方面と対策を考えないかぎり、あらゆる分野にわたる被害となって、とりかえしのつかない事になってしまうであろう。禁猟区になった場合、カモ等による稲作への被害の問題もある。しかし、現在の狩猟期間は11月15日～2月15日までで、稲の実りの時期とは一致せず、鳥の数を減らす役目の一部をになっている、被害を直接防ぐことにはなっていない。被害への対策も同時に考えなくてはならないだろう。

二年間の記録や、思いついたことを書いてみた。特に白鳥の細い観察については不十分な点が多く、はっきりした証拠となる個体識別が私自身、できていない。その方法も今後先学諸氏の研究の成果を参考にして、一層深められたらと思う。この沼で調べられる事には限りもあると思うが、ここでしか出来ない事もあると思うので、また白鳥たちが来てくれればいいなと楽しみにしている。できれば、子供も大人も安心して観察でき、白鳥たちも安心して越冬できる多々良沼にしたいものと思っている。この文を記す気になったのは、これからもまた、あの白鳥たちが元気にこの多々良沼へ来てほしいと思ったからである。また、この沼で死んでいった白鳥や、多くの動植物のことも心にとめておきたかったからである。動植物や人間が安心して、ゆっくりすごせる美しい多々良沼にできたらと思う。

このようなものを大切な紙面にのせていただく機会を与えて下さいました本田清事務局長さんに心より感謝致します。

1981年7月

山ゆりの花さく暑き日に

参 考 文 献

- ・群馬県教育会 1917 群馬県邑楽郡誌 PP 1277～1278
- ・本田正次監修 1966 館林市誌自然篇 PP 255～258 P 300
- ・井上正美 他 1972 図表食品学 P 114
- ・海老名邦輔 1979 四季の野鳥たち 館林双書第9巻所収 PP 306～308
- ・本田 清 1979 白鳥のいる風景
- ・吉川繁男 1980 ハクチョウと生きる P 84
- ・日本白鳥の会 1980 日本の白鳥 PP 92～112
- ・五味禮夫監修 1980 群馬の湖沼 PP 216～226
- ・関根和伯 1981 群馬の魚 PP 67～72